

第5回江別市部活動の在り方検討委員会

【 資 料 】

- 1 部活動の在り方検討に係るワークショップの開催結果について（報告） 1～5
【議題1】

<別冊資料>

- ・ 江別市立中学校における部活動の地域展開に関する提言【議題2】
- ・ 「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」
中間とりまとめ

江 別 市 教 育 委 員 会

部活動の在り方検討に係るワークショップの開催結果について（報告）

1 実施状況

実施日時：令和7年1月29日（水） 17:00～19:30

会場：江別市コミュニティセンター 多目的ホール

参加人数：32名（在り方検討委委員、市教委職員含む）

ファシリテーター：NP0 法人えべつ協働ねっとわーく

2 ワークショップにおける検討内容

●テーマ：「拠点校方式」を導入する場合に想定される課題と解決策を種目毎に整理し、先行導入が可能な種目を考える。

●各グループの意見（抜粋）

- ・野球・サッカーは合同チームで活動しており、拠点校とする必要性があるか疑問。
（サッカー部が無い学校もあり、拠点校の導入は早急に進めるべきという意見もあり）
- ・陸上や剣道は設置校が少なく、拠点校導入で生徒の希望を叶えられるのではないかと。
- ・バドミントン・卓球は、拠点校で生徒を集める場合、市体育館等の広いスペースが必要。
- ・バスケ・バレーは部活数・部員数も充実しており、拠点校導入の必要性は低い。
- ・美術部については拠点校とする必要性が見えにくい。
- ・吹奏楽は、楽器移動・練習場所確保を考えると、拠点校に向いていないのではないかと。
導入した場合でも、やりたい楽器が選べない・演奏できる機会が減る可能性がある。
- ・マンドリン・合唱は、OB や地域に支えられている面もあり、拠点校として広げていくことが適切かどうか、議論が必要である

3 投票結果について

各グループの発表を受け、拠点校方式を導入した方が良いと考える既存種目と、新規種目について投票を行った。

（1）既存種目（抜粋）

1位 陸上（26点）

2位 サッカー（21点）

3位 剣道（13点）

（2）新規種目（抜粋）

1位 マルチスポーツ（6点）

2位 ダンス・新規種目を増やさない（5点）

3位 モルック・演劇・トレーニング（3点）

4 各グループの検討結果及びアンケート結果

別添のとおり

部活動の在り方検討に係るワークショップ アンケート結果

令和7年1月29日開催

1 ご参加された方の立場を教えてください。

公募市民	関係団体	教職員	江別市部活動の在り方 検討委員会委員
6名	1名	6名	5名

※市教委を除く参加者24名のうち、18名から回答あり（75％）。

2 ワークショップに参加したことで、これまでより部活動の地域展開に関する理解が深まりましたか。

とても深まった	深まった	あまり深まらなかった	深まらなかった
3名	13名	2名	0名

3 情報提供やグループワークの中で印象に残ったことがあれば、ご記入ください。

公募市民	・拠点校方式にすることにより、デメリットが生じる種目もあり、全ての種目において拠点校方式が有効ではないことが分かりました。 ・運動部、文化部それぞれの種目に課題がある印象でしたが、より良くなって欲しいと奮闘している状況も伺えました。 ・文化系活動では、拠点校方式が当てはまる種目が少ないことが分かりました。 ・初めて参加しましたが、グループワークで取り上げた種目での話し合いで、参加前に思っていた内容とは違い残念な思いです。指導資格や拠点校の施設の不具合、トラブル時の対応の仕方・責任、費用、移動などまだまだ沢山問題があります。各種目ごとで話し合う必要性を感じました。地域展開まで時間に余裕がありません。もっと具体的な取り組みをお願いします。 ・話していくうちに、拠点校方式にするなら中体連は必要なのか？という話が印象に残りました。 ・専門的な細かい話ができた。拠点校の必要性については、種目を絞ったほうが良いなどの意見が出ていました。
関係団体	・グループ内での司会進行がとても良かったです。部活動の現状がよく分かりました。
教職員	・拠点校方式の理念の話について ・皆さん真剣に考えていて、特に保護者の方の部活動への期待は大きいと改めて感じました。 ・部活動の地域展開に関する国が示す目標時期、スケジュールの変更について ・部活動の地域展開は将来にわたって、生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実していくことが目的であることを理解したが、特に新しい種目の創出を部活動で行うことは持続可能ではないとの意見がありました。 ・ダンスやニュースポーツなどの新種目は部活動として設けるのではなく、むしろクラブ活動・完全な外部としなければ教職員の負担は減らないのではないかという話が出ていました。拠点校方式が部活動の在り方に本当に効果的なのかどうか疑問が残ります。
部活動の 在り方検討 委員会 委員	・他の種目の活動内容も分かりました。 ・今回は拠点校方式を導入する前提として、話し合う場であることは理解していたが、グループ内では、拠点校方式に対してあまり前向きな印象を持っていないように感じました。 ・江別市は、おおむね安定した部活動が多いこと分かりました。 ・ファシリテーターのような存在がいるかないかで、議論も深まりが違ったのではないかと考えます。

4 江別市に適した部活動の地域展開を進めるにあたり、どのような取り組みが必要だと考えますか。

公募市民	・部活動を地域全体で支えていくことについては、江別市、指導者、保護者、生徒、学校で連携を取るようになるのか？それぞれの役割分担をはっきりとさせる事が重要だと考えます。突然変更があるに対応できないため、今からでも部活動はこのような変わっていきますよと市民へ情報を流すことが重要ではないかと思ひます。 ・サッカーなど1チームの人数が多く必要な部活動から、拠点校方式に取り組む方が導入しやすいと感じました。 ・各部活動の指導員の充実を図ってもらひたいです。 ・地域展開のために、どの程度費用がかかり、かけられるのか。拠点校とするための設備・移動方法など費用がかかると思ひます。まずは予算をどの程度出せるかを示す必要があり、拠点校も種目によっては多くなることを考える必要があると思ひます。 ・まずは予算案を組み立てて欲しいです。生徒の拠点校への移動資金、指導者への報酬など。 ・市内における資格保有者等の専門指導者の調査を行ってほしい。
関係団体	・講師をボランティアに行ってもらひのでは必ず限界が来ると思ひます。講師陣に予算をかけるか、文句の出ないうちに交代できる人材の確保と環境が必要だと思ひます。
教職員	・教員の働き方改革につながるような取り組み。 ・まずは予算だと思ひます。指導してくださる方への謝礼、生徒が移動する際の交通費や交通手段、施設の確保など、教員以外の方にお願ひをするには、それなりの予算が必要だと思ひます。教員は、大会の引率をすると、朝8時から夕方6時まで、何時間引率しても上限は3,000円程度で交通費の支給はありません。当然、弁当を持参するのが「普通」です。また、教員が部活動でやっていることは、技術の指導だけではなく、様々なことをやっているという理解を求めることも必要だと思ひました。 ・受け皿となる地域のスポーツ団体も、高齢化により担い手が不足している状況にある。また、休日の運動部活動から段階的に地域展開を進めても、大会等が休日に開催されることが多く、生徒や保護者のニーズに合った活動とはなっていない。江別市では少子化が緩やかである実態を踏まえ、すべての学校に設置されていない種目から、学校施設を利用した地域クラブ活動を段階的に進めていった方がよいと考えます。 ・学校の部活動があることで、地域のスポーツ団体が成立しなかったり、活性化しないような例を把握し、協力を依頼したり、学校での部活動統廃合の参考としたほうが良いと考えます。 ・江別市はかなり多くの部活動があるが、大麻から豊幌まであり面積も広く移動手段は限られている。話し合いを通してあまり現実的ではないと感じました。また野球やサッカーなど、どの学校にもある部活動から制度を変えていかなければ、負担の軽減にはつながらないのではとも感じました。
部活動の在り方検討委員会委員	・指導者の確保、指導者への謝礼、活動拠点への交通手段、活動拠点施設での活動時間等。 ・地域のクラブの在り方など、学校からどのように離していくかを考える必要があると思ひました。 ・現実的には拠点校方式からの地域展開とするのが現実的だと思ひます。 ・外部指導者の増員が必要だと思ひます。 ・指導者育成、指導者の派遣、掛かる費用の捻出や予算計上等。

5 その他（ご意見等ございましたら、こちらにご記入ください。）

公募市民	・テーマの「拠点校方式の実現性を考える」について、これだ！と参加しました。2年前の情報は、「隣の中学校の部活に行けるようになるかも！」でした。それ以降は全く情報が無いまま、今の情報は「部活はクラブチーム等に移行するらしいよ。」でした。部活の改革どうなってしまったのかという事が知りたく、参加しました。私は「少年団の現状」を伝え、早く拠点校方式へ！と唱えてしまいました。しかし、江別市の部活動に対する「スポーツ環境の充実」から始まり、様々な細かい調査を経て、入念に改革を進めている事を知りました。部活動の地域移行への課題は膨大だと思います。もっと市民へ情報を提供しても良いと思いました。子供達がより良いスポーツ活動が出来るよう願っております。この度は参加させていただき、ありがとうございました。 ・生徒数の減少に従って、活動できる部活動の種目も減っていく中で、市全体として種目数を減らさず、生徒のやりたい部活動の選択肢を担保し活動自体も充実できるよう、市教委や市内の校長会が主導して部活動の取り組みを変革して行っていただきたいです。 ・子どもたちが部活として参加できるのは正味2年ちょっとなので、この時期に在学していたから楽しくなかった、パフォーマンスを発揮出来なかった、ということのないように進めて行って欲しいと思います。
関係団体	・特になし
教職員	・「徐々に」進めるのか、「一気に」切り替えるのか、だと思います。現在の江別市はスモール・ステップで「徐々に」という感じなのでしょうが、「一気に」切り替えたほうが良いと思っています。かつての完全週五日制の時のように、思い切って「中学校の部活動は○年度をもって終わります」という形をとらないと、変わっていかないだろうと思いました。考えとしては北見市に近いと思います。ただ、拠点校方式を採用せず、一気に変更したほうが、先々のためになるのではないかと思います。 ・なぜ拠点校方式なのかという部分の情報提供がないまま、グループワークが展開されていた。部活動の在り方検討委員会委員の方もよくわかっていなかった。どの種目が相応しいかという視点の議論ではなく、各グループに事前に振り分けられた種目・部活動において拠点校方式を採用した場合、どのようにするとスムーズな移行につながるのかといったアイデアを創出する作業が必要なのではないかと感じました。 ・中央中などは部活動を求めて校区外から来ている生徒もあり、拠点校のような形になっていると思います。ただ強いところでやりたいという気持ちで来ているので、拠点校の本来の趣旨とは外れているとも思いますので、熱量やその他の環境を考えた時に、拠点校はかなり難しい問題なのではないかと感じました。 ・人材（指導者）確保と財源確保が大切だと思います。ただ、それらの整備を待っていると、いつまで経っても地域展開が進まないのではという気もします。有意義な意見交換会でした。
部活動の在り方検討委員会委員	・意見交換の中で出ていた、早急に必要という意見は、自分の子どもが通っている学校に希望種目がない保護者の意見という側面が強いと感じた。今回はたまたまサッカーであったが、その観点で考えると、どの種目でもどの学校でも言えることだと感じました。そのため、拠点校について考える際、どのような視点で拠点校導入種目を考えるかを明確にしなければいけないと考えます。

6 投票結果について

①拠点校方式を導入した方が良いと考える既存種目

順位	種目名	1位票（2点）	2位票（1点）	合計点
1位	陸上	9	8	26
2位	サッカー	7	7	21
3位	剣道	4	5	13
4位	合唱	5	2	12
5位	バドミントン	3	1	7
6位	バレーボール	2	1	5
7位タイ	バスケットボール	1	2	4
7位タイ	野球	0	4	4
9位	卓球	0	1	1
0票	美術、吹奏楽	0	0	0

②拠点校方式を導入した方が良いと考える新規種目

投票数	種目名
6	マルチスポーツ
5	ダンス、増やさない
3	モルック、演劇、トレーニング
2	ホッケー、書道
1	Eスポーツ、ハンドボール、フィットネス
0	ボッチャ、柔道、華道